

進捗状況の概要

27年度の本事業では、英語教育施設(SILC)の中に設置したアクティブ・ラーニング(AL)のためのSALCの独自の自律学修プログラムのノウハウを、全学の教養科目・専門科目に普及させることでAL科目を増大させるとともに、学生の自律学修マインドを育成し、単位の実質化を図ることを目的として、以下の事業を行った。

1) 昨年設置した全学共通のALの拠点である全学SALCに加えて、5学科(宇宙航空システム工学科・薬学科・ナノサイエンス学科・応用微生物工学科・応用生命科学科)に学科SALCを設置した(応微と生命は合同の学科SALCとし、全4か所に設置)。また、全学科から学生の自律学修を促し、ALを組織的に推進するためのファカルティーデベロッパー(FDer)錬成会を4回実施し、16名(27年度指標6名)のFDerが養成され、「対話を通して学生の主体性を育む学習アドバイジングスキル」を身に付けつつある。この全学SALC・学科SALCの設置とFDerの養成によって、ALの講義数が、26年度の112科目から、27年度は165科目(総科目数915のうち18.0%)に増大した(31年度指標は25%)。また、ALを行う専任教員数が、25年度64人、26年度89人、27年度103人に増大した(31年度指標は150名)。また、AL科目の内必修科目の割合が、25年度53%、26年度60%であったのに対し、27年度は必修科目が増大したものの、選択科目も増えたため59%と横ばいであった(31年度の指標は70%)。さらに、AL形式の講義を受講した学生数は、25年度が1182人(全学の1~3年(薬学科は1~5年)の学生数2453人に対して48.2%)、26年度は1518人((全学の1~3年(薬学科は1~5年)の学生数2586人に対して58.7%)に対して、27年度は2155人((全学の1~3年(薬学科は1~5年)の学生数2725人に対して79.1%)と増大した(31年度の指標は100%)。これによって、学生が主体的に学ぶ機会が増大したと思われる。

2) 学生向けの研修会を実施し、学生ファシリテーター(学生FC)19名及び海外留学を促進するための留学ファシリテーター(留学FC:留学経験者)6名を選抜し養成した。この学生FCとFDerが、曜日と時間を決めて、全学SALC・学科SALCに待機し、学生の自律学修の支援を行った結果、26年度の自律学修の利用者数が延べ76人に対し、27年度は1119人に増大した。また、留学FCが学内の国際交流センターと連携して、留学アドバイジングルームに待機し留学を支援した結果、26年度の本学の海外留学学生数は年間22名であったが、27年度は年間152名と増大した。さらに、27年度末の次年度学生FC・留学FC研修会で、28年度の学生FC36名、留学FC11名が養成され倍増した。

3) 26年度より、図書館の学科推薦図書等を利用した課題提出を、「具体的準備学習内容」として、すべての科目のシラバスに記載することを全教員に要請している。FDerと学生FCによる全学SALC・学科SALCでの自律学修支援の中で図書館の利用促進を図るとともに、図書館の入退館システムによって利用人数と利用時間の把握を行った結果、26年度の図書館利用者数は延べ105418人であったのに対し、27年度は121806人で16388人の増(15.5%増)であった。また、各学科学年ごとに大きな利用時間の差があることが明確になったため、これらのデータとAL科目受講者との関連、全学SALC学科SALC利用者との関連について調査を行う予定である。その際には、本学の「個人情報保護規程」に留意する。また、学生の図書館内での学修行動の把握分析のために、図書館利用の目的調査(抽出調査)を行った結果、講義に関する資料の利用者人数(自主学修)は、26年度4086人であったのに対し、27年度は8693人と増大した。

以上の27年度の本事業の取組は、27年9月4日「初年次教育学会」および12月5日「Q-conference2015」で発表され、また平成28年2月17日「教育学術新聞」に掲載された。初年次教育学会では、金沢工業大学(テーマI・II複合型)・創価大学(テーマI・II複合型)等の大学と意見交換した。また27年11月28日に宮崎国際大学(テーマI・II複合型)で行われた「2015アクティブ・ラーニングシンポジウム」に参加し、情報収集と意見交換を行った。さらに、12月18日に徳山大学(テーマI)から訪問を受け、本学の事業について説明と見学を行い、意見交換を行った。